



県産材を使った快適な家造り

このページでは、住まいの地産地消を紹介しよう。
 住まいの地産地消とは、地元の材を使って地元で根付いた工法で家を作ること。
 素材と技術にこだわり、住環境を第一に考えた建築設計に定評がある
 新潟市北区のK-1工房で、その実例を見せていただいた。

阿賀野川の土手で拾った流木を引き戸の取っ手に。
 「海に打ち上げられた木は出所が不明ですが、これは津川あたりから流れてきたものでしょうね」



旧朝日村の「越後杉」と旧村松町の根曲がり杉を使用。大工として18年のキャリアを積みながら一級建築士免許を取得。ハウスメーカーで現場管理、原価管理の経験を重ね、2001年にK-1工房を設立した須藤俊彦さん。地場の木を使い、伝統工法での家造りを大切にしている。「地場の木はその土地の風土に合っているから育つんです。そして、何百年も地元で受け継がれてきた工法で建てる家が「一番」

雪国新潟の杉は成長が遅く、年輪の幅が狭い。この丈夫な材を用い、補強金物を使わず材木を組む伝統工法は、年月を経るほどに耐力が増す強い家ができるという。県産材を使い伝統工法で建てた家に案内していただいた。

新潟市東区のW邸は、現代和風「根曲がり」の木で組む家」と名付けられている。旧朝日村で育った「越後杉」と、Wさんの実家が所有する旧村松町の根曲がり杉を使用しているためだ。LDK上部を見れば、梁（はり）や構造材による堅牢な造りが二目でわかる。本物の木を使った構造と、珪藻土（けいそうど）の壁、無垢（むく）のフローリング。断熱材にも羊毛を用いるなど、徹底して自然素材にこだわった自慢の一邸だ。



最後の仕上げは家族の手で壁塗り、タイル貼り。価格が見える納得の家づくり。

家を建てるなら自然素材で、と考えていたWさんは、インターネットでK-1工房の設計思想に触れ、地元の山の木を使いたいと須藤さんに相談。雪の重みに耐えた根曲がりの材を住まいの随所に使うことになった。玄関や階段の手すりに使用された根曲がり材は、まさかして仕上げた梁（はり）に負けない存在感だ。すべてを隠し切らない収納、回遊できるレイアウト、広い洗面脱衣室、くつろげる和室、坪庭の見えるバスルーム。Wさんの夢が少しずつ形になっていった。完成後は、引き戸の取っ手に須藤さんが川で集めた流木をあしらった、家族で珪藻土の壁を塗りキッチンとバスルームに一枚ずつタイルを貼った。「住みたい家の理想形がはつきりしていたので、ひとつも妥協せず思い通りの家が

できました。自分たちの手で仕上げをしたことも、いい思い出です」とWさん。その笑顔には、基礎工事、電気工事といった専門工事会社と施工主が直接契約をする低価格が特徴の「オープンシステム」分譲発注方式”を通して、納得のいく家造りをフルに体験した満足感があふれていた。須藤さんから贈られた一枚板のテーブルのあるリビングでくつろぐ毎日。「この家に住んでから、あまり外出しなくなっちゃかも。まったく飽きない家なんです」



こちらは1メートルを超える橋を跨つ杉の一枚板の長テーブル。部屋の雰囲気にマッチした一枚板は存在感がある



上●補強金物を使わない伝統工法。太い梁（はり）が外壁を貫いているのがわかる。構造材をすべて見せる手法が特徴。農家の作業小屋をイメージした。右●真冬も家全体を1台で暖めてくれる薪ストーブ。上層から新築祝いいただいた手作りの木製スピーカーは、薪ストーブとよく似合い、心も体も暖めてくれる



上●重厚感あふれる太い梁（はり）があらわになった天井。3つの天窗からは柔らかな明かりが届く。左●Wさんの地元・旧村松町で伐採した根曲がり材を手すりにあしらった階段



「伝統工法の家を設計するのは大変難しいことですが、地元で受け継がれてきた伝統文化を残していかなければと考えています。またこれから設計士を目指す若者たちにも伝えていけたらと思います」と語る須藤俊彦さん



K-1工房
 新潟市北区すみれ野3丁目5-1
 電話025 (259) 7999
<http://www.k-1kobo.com/>
 ●事務所兼用のモデルルームも公開中。
 訪れる際は事前に連絡を。